

ごあいさつ

内閣府大臣政務官

(科学技術・国家戦略・経済財政・地域主権担当)

津村 啓介

本日本話したいこと

- 「科学技術コミュニケーション」の重要性
- 日本学術会議のあり方について

「科学技術コミュニケーション」の重要性

○ 3つの問題意識

- 「科学技術は未来への投資」は、国民の支持、共感を得ているか。
- 子供たちは以前ほど科学者に憧れなくなっていないか。
- 科学者および実務者が働きや能力に応じた評価（報酬）を受けているか。

→ 「事業仕分け」に対する反応（科技コミュニティ、国民）

→ 内閣府アンケートに表れた潜在的な国民の“期待”

「科学技術コミュニケーション」の重要性

○ 2つのアプローチ

- 透明性(何が起きているか知ってもらおう)
- コミュニケーション(出会い、語り、突っ込みあう)

「科学技術コミュニケーション」の重要性

○足許の取り組み

- アクション・プラン(予算編成プロセスへの科学者の参加と可視化・通年化)
- 横の連携(科技、知財、IT)
- 総合科学技術会議のバージョンアップ
- 科学技術ミーティング in 大阪
- 内閣府政策会議における総合科学技術会議有識者と国会議員の懇談
- 科学技術フェスタ in 京都

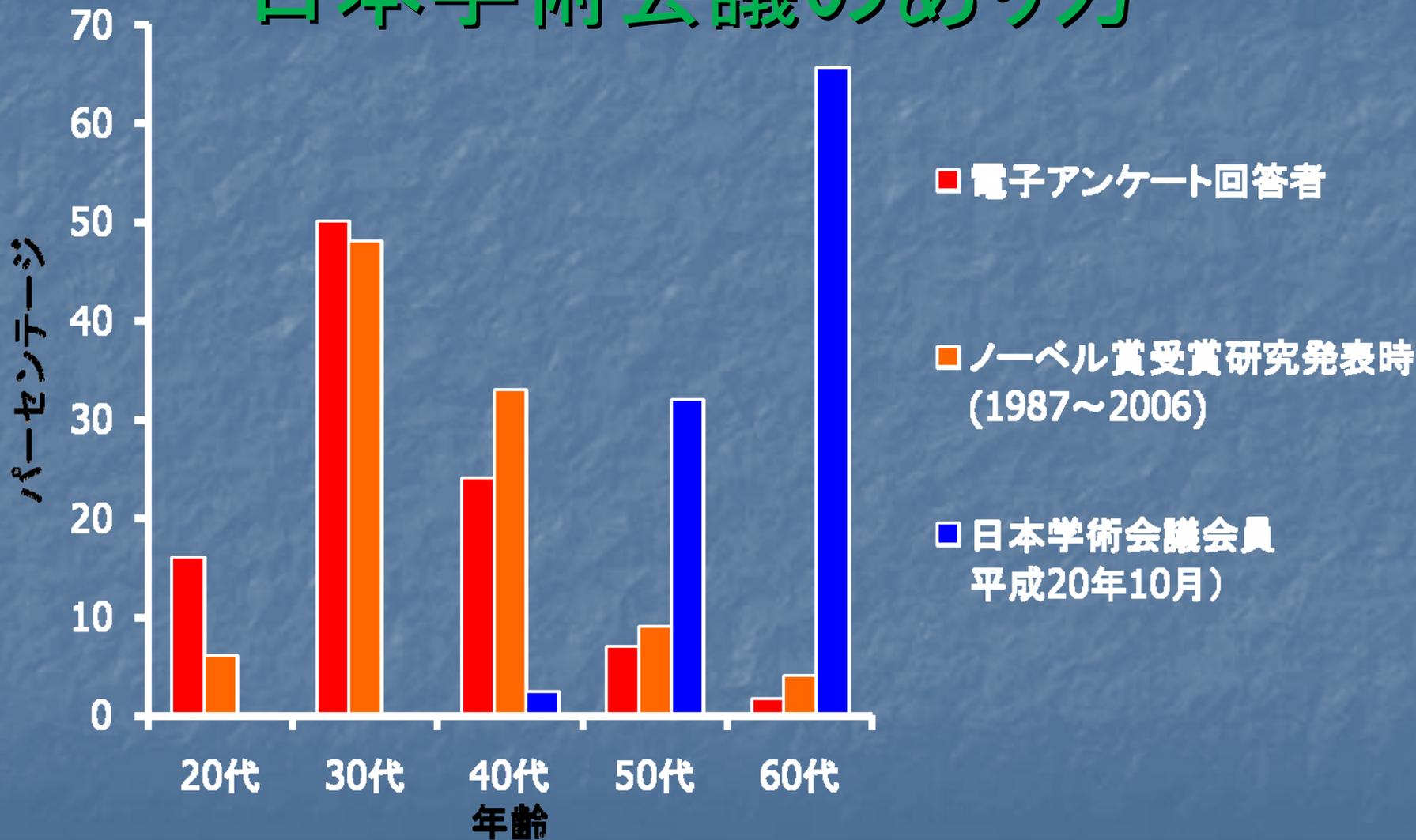
日本学術会議のあり方

○日本学術会議＝科学者コミュニティの代表
⇒「科学技術コミュニケーションの担い手」

1) 国民との対話＝「科学技術リテラシー」の向上
・ (サイエンス・カフェ)

2) 政策担当者との対話＝「事業仕分け」を超えて
・ 研究開発投資対GDP比4%
・ アクション・プラン(予算編成の可視化・通年化)
・ マスター・プラン(日本学術会議の新たな試み)

日本学術会議のあり方



ご清聴ありがとうございました。